

保育計画成果報告書

法人名	株式会社ファイブエレメンツ
施設名	うみのほいくえん
報告者（役職）	吉村明子（園長）
住所・連絡先	千葉県船橋市湊町2-2-20 102・202
	☎ 047-468-8698 E-mail umi@5-five-elements.jp

○タイトル（保育計画）

・発達を促す遊具の導入 ・貸出絵本コーナーの設置

○主な助成備品

・ソフトモジュールセット ・バランスボード ・カラー運動棒 ・ウェーブバランス平均台
・フラフープ ・トンネル ・絵本 その他

① ソフトモジュールセットについて

1. 保育計画策定の目的

主に0歳児のクラスで使用。

ソフトモジュールセットとは、斜面や階段、凸凹になっている、柔らかい素材の遊具。ずり這いや四つ這い、歩行などそれぞれの子どもの発達に合った方法で、登り降り、滑る、またぐ等、バランスを取りながら全身を使い、移動を行う。斜面を座位で滑る、うつ伏せで後ろ向きに滑る、前向きに滑るなど、様々な遊び方を行う。

そのことによって、楽しく遊びながら脚力、腕力、腹筋、背筋、平衡感覚、空間認知能力を養い、身体をコントロールする力をつけていく。

2. 具体的な実施内容

雨の日や夕方など戸外へ出かけられないときに使用し、室内で体を動かすための遊具として大活躍している。発達段階に応じてパーツの組み合わせを自由に変えることができ、その時の子どもの状態に合わせた方法で遊ぶことができています。

導入時ははいはいでの移動が主だったこともあり、斜面に階段を加え設定を行った。障害物を越えることで適度に体を動かすことができ、四つ這いで登る、降りることを十分に経験し楽しむことができた。歩行ができるようになった頃からは、波型を加えて設定を行った。バランスを取りながら四つ這いで進んだり、保育者に支えてもらいながら歩くことを楽しんでいった。

3. その成果と評価

腕や脚を使い全身を動かすことで体幹を鍛えることができ、鍛えた力を実際の生活で活かせるようになっていった。

体幹がしっかりせず立っている時や歩いている時にふらついたり、頭から転んだりすることが多々見られていた子どもも、遊びを繰り返すことでしっかりと姿勢を保つ力や腕の力が身につき、転ぶ際も少しずつ手を出せるようになっていった。また、ずり這いから四つ這いをせずにつかまり立ち、つたい歩きへと移行した子どもも、保育者の働きかけによってソフトモジュールを用いて、手をつきながら階段を登る経験を繰り返し、腕で体重を支える力が身につき四つ這いができるようになった。

このようにして、身につけていってほしい力を、遊びを通して楽しく身につけることができた。多様な姿勢の獲得を促し、変化を楽しみながら遊ぶことができたと思う。また、ひとつの遊具を数名の子どもたちが一緒に遊ぶ中で、順番を守ること、一方通行などのルールに触れる良い機会となった。戸外に出られない時に体を動かすための遊具として大活躍しているが、それだけでなく子どもたちの発達に必要な力や経験を得ていくものとして役立てていきたい。

4. 今後の課題と展望

今後も0歳児クラスで設定を行う。子どもたちにははいはい時期から安全な部屋の中で、段差や斜面などの登り降りをたくさん経験して行ってほしい。

どうやって登ろうかな？どうやって降りようかな？転ぶ時は手をついたらいいんだ。ということを経験することで学び、安全な場所で十分練習し、成長していければと思う。

そのためにも、保育者は子ども一人ひとりの発達段階を把握し、発達に適切な環境設定をしていかなければならない。今後も定期的な職員間での話し合いの時間を大切に、実施・評価と繰り返していけるようにしていこうと思っている。

ただ単に体を動かすためのだけの遊具とするのではなく、子どもの発達に必要な経験を積んでいくためのものとして、意識的に活用していければと考える。

(ソフトモジュールセットで遊ぶ様子)



② 運動器具 「バランスボード」「ウェーブバランス平均台」「カラー運動棒」「フラフープ」等について

1. 保育計画策定の目的

主に1、2歳児のクラスで使用。遊具をまたぐ、くぐる、バランスをとって歩く、跳び越えるなどしながら様々な動きを身につける。また、遊びの中から平衡性、巧緻性、敏捷性、柔軟性などの発達を促し、自身の体の調整力を向上させ、楽しみながら感覚や機能を育てることが目的。

狭いところを歩くスリルを味わい、達成感により、勇気や自信、集中力が育つ。また、全身の発達を促すとともに、危険に対応する能力を養う。約束を守って遊ぶことにより社会性も身につけ、友達に対して思いやりの心が生まれることも期待した。

2. 具体的な実施内容

(バランスボード、ウェーブバランス平均台)

初めはそれぞれで使用し、使い方や約束が分かってきてから、サーキット遊びに取り入れた。バランスを取りながらまっすぐ歩いたり、横歩きをしたりして使用。配置を変え、トンネルやフープ、すべり台などとも組み合わせて遊べるように設定、楽しみながらたくさん体を動かせるよう工夫した。

(カラー運動棒)

少しずつ数を増やして、平行に2本に並べた上でバランスを取って歩く、横向きに置いてまたぐ、ジャンプするなどして使用した。

1、2歳児混合のクラスで使用したため、年齢・月齢によって大きく差があり、必要に応じて高さを調節したり、高くしてジャンプができない子にはまたいでも良いような配慮をしたりして遊んだ。

(フラフープ)

室内では、サーキット遊び、転がして追いかける、電車ごっこなど多様な方法で使用。屋外でも、くぐってゴールする障害物競争に使用した。

3. その成果と評価

初めのうちは自信が持てず「できない」と言っていた子どもや、保育者と手を繋がないと平均台が渡れない子どもがいたが、繰り返し遊び、友だちの様子を見ているうちに、自信をつけて一人でも渡れるようになっていった。

またバランスを取って歩く場面では、横歩きやすり足から、足を交互に出してまっすぐ歩いて渡るようになっており、全身の運動能力の発達が伺える。

フラフープでは、友だち同士で関わりながら、電車ごっこなどの遊びを発展させる姿が見られ、関わりを促す材料としても大きな役割を果たしている。

さらに、みんなで使用することで、集団での約束を守り、順番を守ろうとする姿勢が見られるようになったことも、大きな成長の一つであると感じる。

室内遊びが広がり、充実したことで、雨天時でも子どもたちが楽しく体を動かすことができるようになり、保護者からも感謝の言葉を頂いた。

4. 今後の課題と展望

今後とも、子どもたちが楽しみながら体を動かすことで、運動能力の向上を図れるように働きかけていく。一人一人に合わせた配慮や課題を検討し、心と体の発達を援助できるようにしたい。またサーキット遊びでの組み合わせなど、子どもたちがより楽しめるような工夫を行っていく。

また集団で遊ぶ時のルールについても、経験の中から子どもたちに伝えていきたい。

バランスボード



カラー運動棒



サーキット遊び (ウェーブバランス平均台、ソフトモジュールセット、フラフープ)



③ 貸出絵本コーナーの設置について

1. 保育計画策定の目的

子どもたちは絵本が大好きなので、家庭でも親子でゆっくりと関わりながら絵本に親しんでもらいたいということが目的。

絵本を通じてゆったりとしたふれあいの時間を持つことで、親子のコミュニケーションを増やし、子どもの情緒的な安定を図る。そのことで親も子どもへの愛情を増し、子育てをさらに楽しむようになるのではないかと考えた。

2. 具体的な実施内容

全園児が最も見やすいと思われる 1 階入り口付近に貸出絵本コーナーを設置。園だよりで設置を周知し、お迎えの際に子どもと一緒に 1 冊ずつ選んでもらえるようにした。

絵本の選定は、年齢に合っていることはもちろん、子どもたちの興味や好みを考慮し、やさしい図鑑やしかけのある絵本なども幅広く取り入れた。

季節に応じて定期的に入れ替えを行った。また貸し出しのみに限らず、日常的にもこのコーナーの絵本を利用し、絵本に親しむ機会を多く作った。

3. その成果と評価

子どもたちだけでなく、保護者からも「絵本を借りて帰ろうか」という声が聞かれるようになった。家庭で読むことを楽しみにしてくれている様子が見える。

「好きな絵本だったようで、何度も読んでとせがまれました」

「気に入っているようなので、家でも同じ本を購入したいと思います」

「指をさして、物の名前を言っており、思った以上に知っていて驚きました」

などと、親子で絵本に親しんでいる様子。

4. 今後の課題と展望

今後は、季節ごとにさらに絵本を増やしていきながら、園だよりや掲示などで新刊のお知らせをし、気に入って読んでいる絵本の紹介や子どもたちの様子など、さらに保護者にも興味を持ってもらえるよう知らせていく。また、絵本からの遊びの発展など、子どもたちの声を拾いながらうまくつなげていきたい。

以上